

新国立1550億円残る懸念

財源確保・工期前倒しに課題

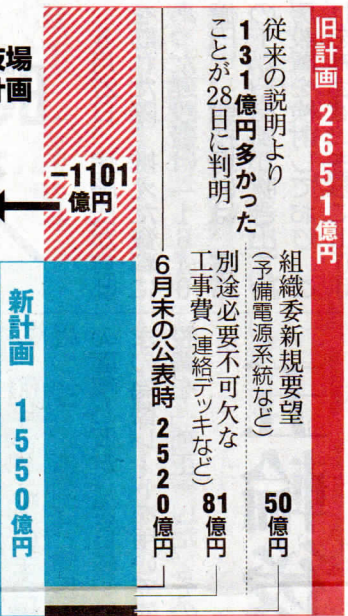
2020年東京五輪・パラリンピックの主会場となる新国立競技場の新しい整備計画が28日、決まった。焦点だった建設費の上限は旧計画より1千億円超削ったものの、1550億円に上った。細かい内訳は示されず、財源も決まっていな

倒しを実現できるかなど残された課題も多い。▼2面
 削減額にこだわり、12面
 社説
 新計画では、旧計画の2520億円に、未公表だった周辺施設の工事費など131億円を新たに加えた総額2651億円から、1101億円削減した。「キーアーチ」という巨大なア

チで支える屋根を見直し、屋根の費用を950億円から238億円に圧縮。さらにスポーツ博物館などに競技に直接関係ない施設を取りやめたほか、五輪開催時の観客席を7・2万人から6・8万人に縮小するなどした。

ただ、1550億円の細かい内訳については「入札批判も出そうだ。

財源も「東京都など関係者と協議を行い、早期に結論を得る」とされ、定まっていない。旧計画では、下村博文文科科学相が東京都に500億円の負担を求めたが、舛添要一知事が反発



した経緯がある。舛添氏は28日、「都としても協力できることは全面的に協力する」としつつも、「都民の税金を使うので、都民が納得いくものでないといけない」と釘を刺した。

工期も課題となる。政府は新計画をもとに、9月1日から設計と施工を担う会社を一括して公募し、12月末に決定。20年4月末の完成をめざす。完成時期は、IOCが20年1月への前倒しを求めている。

政府は前倒しの工夫をした事業者を公募の際に有利にする考えだが、計画の急な見直しで工期の余裕はすでに少なく、本当に前倒しが

折々のことば

鷺田 清一 147

偉大な冒険とは同じ顔の中に日ごと見知らぬものが現われるのを見ることだ。

友人の顔を描くことに心血を注ぎ、ついで完成を見ることがなく終わった美術家のことば。私とは異なる場所から何かを感じている他者。その内側から見える光景はおそらく空より遠く、海より深い。この無限の隔たりが「他」であるということなのだろ

う。同じでないということ、そのことがかぎりなく尊い。「ジャコメッティ 私の現実」(矢内原伊作・宇佐見英治訳) から。

2015・8・29

できるのか、不安を抱えている。しかし、活用方法は「これから検討する」(遠藤利明五輪相)とし、五輪後の収益計画は見通せない。(山岸一生)